

内陸避難者、語らい和やか

奥州・水沢 花見や食事楽しむ

奥州市のボランティア団体「奥州♡絆の会」(渡辺明美会長)は19日、同市水沢区の駒形神社龍昇殿で交流会

「3・11を忘れない」を開いた。東日本大震災後、奥州市や周辺自治体で暮らす被災者ら21人が参加。近くの水沢公園で花見を楽しんだ後、食事や余興で交流を深めた。

交流会は5回目。開会に先立ち、東日本大

震災と熊本地震の犠牲者に黙とうをささげた。内陸に移り住んだ人や、自宅を再建し沿岸に戻った人など立場はさまざま。参加者は近況を伝え合い、踊りを披露するなどして和やかなひとときを過ごした。

今回は、陸前高田市広田町の郷土芸能「広田御祝い」保存会が初めて登場。大漁旗をバツクに繰り広げられた

威勢の良い浜唄に、参加者は手拍子や掛け声で加わった。

同保存会の斉藤祥子(さきこ)会長(72)は「奥州には初めて来たが、知り合いと再会でき、元気でいるんだなとうれしくなった」と笑顔で語った。

陸前高田市高田町で被災し、現在は金ヶ崎町で暮らす村上りつ子さん(66)は「5年もたつのにいろいろ企画してもらって感謝している。集まってわいわいするのが一番楽しい」と話していた。

と話していた。



手拍子をしながら広田御祝いを楽しむ参加者